

サプライチェーンマネジメント

社会になくてはならないムラタであり続けるために、お客様はもちろんのこと、仕入先様や地域の皆様とのつながりを大切に、パートナーシップの強化に努めています。サプライチェーン全体にムラタの姿勢を伝えていくことで強固な信頼関係を築いてまいります。

仕入先様とのパートナーシップを重視したCSR調達の推進

ムラタはこれまで「公平」「公正」「透明性」を調達活動の理念として、調達方針^{※1}に基づく仕入先様との共存共栄を目的としたパートナーシップの構築を進めてまいりました。今後もその考えは変化することなく、ステークホルダーの皆様との共栄を図るべくさらにその内容を深化させていきたいと考えています。また児童労働、強制労働、性別・宗教による差別の禁止、責任ある鉱物調達など、調達におけるサプライチェーンのCSRリスク低減にも積極的に取り組んでいきます。

現在ムラタではCSR調達において主に次の3つについて取り組んでいます。

- ① 仕入先様には、社是を土台とした「ムラタCSR憲章」と、それに基づく、「仕入先様に求める基本姿勢^{※2}」をまとめ、その遵守をお願いしています。
- ② 口座開設時には、「CSR同意書」を締結し、仕入先様においてもRBA（責任ある企業同盟）のCode of Conduct（行動規範）に準拠した活動を推進していくことについて同意をいただいています。
- ③ 2017年からは、「CSR遵守状況チェックリスト」の運用を開始しております。仕入先様自身がCSR遵守状況をセルフアセスメントできると同時に、課題を「見える化」することで、その課題と是正方法について仕入先様とムラタとの双方で協議し、より効率的かつ根本的な解決を行うことを目指しています。

このチェックリストによるアセスメントは毎年定期的に行っており、昨年度は約110社の主要仕入先様を対象に実施し「回収率100%」「調査時点での致命的リスクなし」との調査結果を得ております。

ムラタは、これらを効果的に実践するためには、一方的に活動を要請するのではなく、これまでに培ったパートナーシップをもとに仕入先様と共働

していくことが重要と考えています。

近年はこれらCSR活動の対象範囲を、お付き合いのある企業のみならず、サプライチェーン全体に拡大することも求められています。ムラタはこれからも社是の精神に基づき、仕入先様と共存共栄を目指すことで、長期に渡る信用の蓄積や強固なパートナーシップを構築し、CSR調達をますます拡大・高度化しステークホルダーの皆様が安心できるサプライチェーンの確保を推進してまいります。

また、ムラタではCSRやESGに代表される非財務の課題を経営戦略に織り込むべきという考えのもと、社会課題を起点としたマテリアリティ（重点課題）を設定し、全社プロジェクトを立ち上げ活動を進めています。調達の観点からはマテリアリティの「サプライチェーンへの展開」を行うべく、当プロジェクトに参画しています。さらには、調達部門の中期方針として「ESGを考慮したCSR調達の実現」を掲げ、自社視点のみならずステークホルダー視点の課題も取り入れることで、当方針の遂行に努めます。

具体的には、ESGインデックス等の調査項目、株主・投資家様やお客様からのご質問などを元に約30の課題を設定し、それらを「社内での取り組みができていないか」「ステークホルダーに情報公開ができていないか」の2つの視点で作成したマトリックスを使って位置づけを明確にしました。さらにそれぞれの象限によって課題の進め方を「新たなテーマとして取り組みを開始」「情報公開の方法を検討し実施」「現在公開されている内容を再確認し必要に応じて改定」の3つに分類し、推進計画の策定を行いました。今年度においては特に「仕入先様に向けた行動規範の作成」「仕入先様へのCSR監査の実施」を重点テーマとして位置づけ、これに取り組んでいきます。

今後は策定した計画に基づき仕入先様と共働しながら課題の解決を進めるとともに、進捗に応じた定期的なマトリックスの更新を行い、株主・投資家様をはじめとしたステークホルダーの皆様への情報公開に努めてまいります。

- ※1 調達方針
<https://corporate.murata.com/ja-jp/about/procurement/policy>
- ※2 仕入先様に求める基本姿勢
<https://corporate.murata.com/ja-jp/about/procurement/expectations>

責任ある鉱物調達の推進について

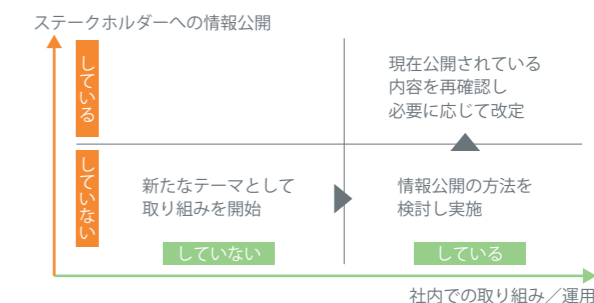
鉱物調達において深刻な人権侵害が社会問題となり、責任ある鉱物調達への関心が高まっています。

ムラタにおいては、CSR（企業の社会的責任）の一環としてこれを捉え、対応方針に基づき業界標準に準拠した調査および情報提供を行っています。また社内体制として、代表取締役社長を委員長としたCSR統括委員会において、責任ある鉱物調達に対する活動内容やその進捗・課題について経営トップと共有化し意思決定を行っています。

過酷な労働環境下での強制労働や児童労働など、サプライチェーンにおける重大な人権侵害に対して、ムラタは人権デュー・ディリジェンスに対応した持続可能な調達に取り組んでいます。たとえば責任ある鉱物調達のリスク査定対象をOECD Annex II リスクに、また地域をCAHRAs（Conflict-Affected and High-Risk Areas）に広げるといった取り組み方針の改定のほか、仕入先様に対する定期的な鉱物サプライチェーンリスク査定の仕組みの見直しや、鉱物調達における懸念事項への相談窓口開設等も行いました。

お客様からのサプライチェーン情報提供のご要望に対しては、RMI（Responsible Minerals Initiative）が発行するCMRT（Conflict Minerals Reporting Template）に加え、昨年よりCRT（Cobalt Reporting Template）によるコバルトの情報提供も開始しました。またその情報に変化がないかを確認するため、仕入先様に対して定期的な調査も継続しています。3TGサプライチェーン調査においては、当社主力製品である積層セラミックコンデンサをはじめ、インダクタ、サーミスタ、圧電製品などについては、すでにコンフリクトフリーであることを確認しています。また、コバルトの

課題取り組みの考え方



使用が多いリチウムイオン二次電池製品においては、現在全体の約80%の仕入先様より回答を取得し、そのうちRMAP未参加の製錬所に対して受審を促す呼びかけを行うなど、コンフリクトフリーに向けた取り組みを積極的に行っています。今後も当社鉱物サプライチェーンの安全性を担保するため、継続して調査を続けるとともに、報告された情報に対して、OECD デュー・ディリジェンス・ガイダンスに基づいて規定した社内基準に沿って評価し是正措置を行うなど、（▶P67参照）仕入先様と一体となって改善に取り組むことで、サプライチェーンにおける人権等のリスク軽減につながる取り組みを継続的に推進していきます。

ムラタはJEITA「責任ある鉱物調達検討会」、RMIの会員企業でもあり、業界のイニシアティブである団体に属することで業界全体の仕組みづくりなど個社では限界のある課題に対しても積極的に取り組んでいます。JEITA主催の「責任ある鉱物調達説明会」では、講師としても参画しており、また、JEITA「製錬所支援チーム」の一員としても、RMAP未参加の製錬／精製所に対して受審を促す活動も行っています。

今後マイカやリチウム、グラファイトといった対象鉱物の拡大やリスクの高まりに対しても、ムラタは積極的に取り組んでいきます。またこれまで以上にお客様、仕入先様、業界などと密接に連携することでサプライチェーンの透明性を確保し、人権等リスクも考慮したCSR調達に引き続き取り組んでいきます。

そしてこれらの活動を推進し実現することで、ステークホルダーの皆様へ安全・安心をお届けしていきます。

OECD Due Diligence Guidance 5ステップに準じた取り組み

ムラタは自社製品に含有される3TGおよびコバルトなどにおいて、CAHRAsにおける人権侵害などのAnnex IIリスクを低減するためOECDデュー・ディリジェンス・ガイダンスに則り、以下に取り組んでいます。

OECD Due Diligence Guidance 5ステップ

| | |
|-------|---------------------------------------|
| ステップ1 | 強固な管理システムの構築 |
| ステップ2 | サプライチェーンにおけるリスクの特定と評価 |
| ステップ3 | 特定されたリスクに対処するための戦略の構築と実施 |
| ステップ4 | 独立した第三者による製錬／精製業者のデュー・ディリジェンス行為の監査を実施 |
| ステップ5 | サプライチェーンのデュー・ディリジェンスに関する年次報告 |

ステップ1 強固な管理システムの構築

- ムラタは「責任ある鉱物調達対応方針」を定め、自社製品に含有する対象鉱物のCAHRAsにおけるAnnex IIリスクの有無について管理する仕組みを構築しています。
- 責任ある鉱物調達の取り組み内容と課題はCSR統括委員会において定期的に経営トップと共有化し意思決定を図っています。
- 取り組み方針はウェブサイトなどで周知を図るとともに、お取引先様にはムラタの方針に基づく取り組みについて同意をいただいています。
- サプライチェーン上の製錬／精製業者を特定するために、国内外の仕入先様に対して業界標準 (RMAP) に基づく調査を行っています。
- 仕入先様には毎年JEITA主催の責任ある鉱物調達説明会の案内状を送付し、業界最新動向や現状課題などに関する勉強会に参加いただいています。

ステップ2 サプライチェーンにおけるリスクの特定と評価

- RMIの発行するCMRT、CRTを利用した製錬／精製所調査を定期的に行っています。
- 仕入先様へは第3者機関による監査プログラムで認証された製錬／精製所を使用していただくよう要請しています。
- 調査では、3TGおよびコバルトの含有確認、原産国の確認、製錬／精製所の特定を行っています。
- 仕入先様から報告された製錬／精製所情報や責任ある鉱物調達に関する管理体制に対して、社内基準に沿ったリスク評価を行っています。
- 特定された製錬／製錬所について、必要に応じてRMI監査レポートや、ウェブサイトなどからリスクにつながる情報がないかを確認しています。

ステップ3 特定されたリスクに対処するための戦略の構築と実施

- 仕入先様にはムラタの責任ある鉱物調達対応方針に基づき、人権や紛争リスク軽減に向けた取り組みを要請しています。またリスクの高い製錬／精製所を使用している場合はそのリスク内容を伝達し、改善に向けた適切な対応を仕入先様と協議しながら進めています。
- もし武装勢力との関係や人権侵害などAnnex IIリスクに該当する企業との関係が明確になった場合は、取引停止に向けた検討を行います。

ステップ4 独立した第三者による製錬／精製業者のデュー・ディリジェンス行為の監査を実施

- ムラタは個社では解決が難しい問題に対して、RMIおよびJEITA「責任ある鉱物調達検討会」の会員として業界レベルで取り組んでいます。一例として、業界主催の説明会での講師としての参加やRMAP未参加の製錬／精製所に対してその受審を促す働きかけなどを行っています。

ステップ5 サプライチェーンのデュー・ディリジェンスに関する年次報告

- ムラタの責任ある鉱物調達における活動報告は、ウェブサイトおよび統合報告書にて公開しています。
仕入先様への責任と行動 <https://corporate.murata.com/ja-jp/csr/people/suppliers>

責任ある鉱物調達対応方針

- 1 村田製作所CSR憲章に基づいて、CSR調達活動の一環として取り組む
- 2 当社製品に含有される対象鉱物について、「OECDデュー・ディリジェンス・ガイダンス」に準拠した管理の仕組みを構築する
- 3 上記の仕組みを活用し、よりリスクの少ない部資材を使用する努力を継続することで、金／スズ／タンタル／タングステン／コバルトなどの当社鉱物サプライチェーンにおける武装勢力への資金供与防止や人権の保護、公正な取引の推進など当社使用鉱物の責任ある調達を推進する
また、紛争や人権侵害などへの関与が明確な企業からの調達は行わない
- 4 業界団体との連携を密にし、業界標準に基づいた合理的かつ効率的な調査を、誠意を持って行う
- 5 サプライチェーンを通じて入手した鉱物に関する情報は可能な限り早くパートナー企業様と情報共有する